平成２６年度教育事業

免許状更新講習

ポリ袋を活用した野外炊飯やリスクマネジメントの手法、仲間づくりゲームの進め方、肱川での水生生物や岩石の採集、パックテストを使った水質検査など、学校現場で学級経営や教科指導に生かす体験活動の知識や指導技術を学ぶことができました。

１　事業実施までの経緯

平成１９年６月の改正教育職員免許法の成立により、平成２１年４月１日から教員免許更新制が導入された。教員免許更新制は、その時々で教員として必要な資質能力が保持されるよう、定期的に最新の知識技能を身に付けることで、教員が自信と誇りを持って教壇に立ち、社会の尊敬と信頼を得ることを目指すものである。

今日の子どもの現状として、基本的生活習慣の乱れ、基礎的な体力の低下、運動能力の発達不足、活動意欲の低下、希薄な対人関係などが指摘されると共に、いじめ、不登校、引きこもり、学級崩壊などの問題が顕著になっている。こうした問題の原因として、保護者を含む地域の大人のかかわりの少なさ、自然とのふれあいや仲間との交流の少なさといった直接体験の不足が挙げられる。

子どもたちの社会性や豊かな人間性を育むためには、発達段階に応じた体験活動の充実を図る必要がある。そのためには、小・中学校に勤務する教員自らの体験を豊かにするとともに、体験活動に関する基礎的な知識や技能を身に付けることが求められる。そこで、当所で免許状更新講習を実施するにあたっては、「実際に体験する」「指導方法を学ぶ」「学級づくりや仲間づくりへの活用を考える」という３つのポイントについて留意し、活動プログラムを企画・立案している。

当所での実施は５年目となり、教員間での認知度も高まっている。

２　ね　ら　い

地域の自然環境を生かした「生活科」、「理科」、防災や環境をテーマにした「総合的な学習の時間」を指導するための必要な知識・技能を身に付ける。また、自然体験活動の指導技術を身に付け、体験活動の重要性について体感すると共に、学級づくりに役立つ体験学習を活用した指導法について学ぶ。

３　主　　催　独立行政法人国立青少年教育振興機構　国立大洲青少年交流の家

４　期　　日　平成２６年８月２６日（火）・２７日（水）

５　場　　所　国立大洲青少年交流の家　　肱川中流域の河原（大洲大橋下）　他

６　参加人数　４７名　（募集人数４８名）

７　講　　師　高橋　治郎　氏（愛媛大学教育学部　教授）
佐野　　栄　氏（愛媛大学教育学部　教授）
向　　平和　氏（愛媛大学教育学部　准教授）
中村　依子　氏（愛媛大学教育学部　講師）
国立大洲青少年交流の家　所長
国立大洲青少年交流の家　企画指導専門職

8　日　　程

	8:45	9:00	9:15	(休憩) 13:30	15:30	15:45	16:15
8/26 (火)	受付	ガイダンス	実習 「体験活動の指導法Ⅰ」 (安全管理・野外炊飯) 3.5h	実習・講義 「体験活動の指導法Ⅱ」 (講義・グループワークゲーム) 2.0h	休憩	試験	解散

	8:45	9:00	9:15	12:00	13:00	14:00	14:15	15:45	16:00	17:00
8/27 (水)	受付	ガイダンス	実習 「河原で観察」 2.5h	昼食	講義 「地学分野」 1.0h	休憩	実習・講義 「生物分野」 1.5h	休憩	試験	解散

9　活動内容

＜8月26日（火）＞

【実習】体験活動の指導法Ⅰ　　講師　企画指導専門職

体験活動を効果的に実施するためには、プログラム内容が重要であると同時に、事故やけがなく体験を最後までやり通すことも重要である。まず、安全管理を行う上で必要になってくる「リスクマネジメント」という考え方の説明を行った。その後、活動が行われる炊飯場周辺を下見し、危険箇所の確認と、活動中に実際に起こりうる事故やけがを想定し、付箋に書き出す作業「リスクの発見・把握」を行った。

次に各班で書き出した事例について、確率と危険度で分類し「リスクの評価・分析」を行った。そして、「それらのリスクを防ぐためにどのような対策をとればよいか」「発生したらどう対処するか」など、「リスクの対処・処理」を各班で話し合い、画用紙にまとめて発表した。

野外炊飯実習（カレーづくり）では、安全で効果的な火の起こし方や日頃使うことのないような道具（まいぎり式・弓ぎり式火起こし器やメタルマッチ）を使っての火起こし体験を行った。また、おいしいご飯を炊くための時間配分、片付けの時間を短縮するための知恵等を実習を通して学んだ。受講者にとって、野外炊飯の一例として紹介した、被災地や避難所での炊き出しに活用されている炊飯用ポリ袋を使った炊飯についての関心が高く、多くの受講者が実際にポリ袋を使って炊飯をした。体験した受講者は「子どもたちにも体験させたい」「職員研修にて他の先生にも紹介したい」とポリ袋を持ち帰る受講者が多数いた。

この中で体験活動の指導法や安全管理について再確認し、新たな発見をするなど有意義な時間を過ごすことができた。初めて顔を合わす者が多い中、手際よく役割分担を行い、各班おいしそうなカレーができあがっていた。

【実習・講義】体験活動の指導法Ⅱ　　講師　所長　企画指導専門職

午後からは、国立大洲青少年交流の家所長が、体験活動の効果と教育的意義についての講義を行った。「体験の風をおこそう」をテキストとして活用し、青少年の現代的課題である幼少期の自然体験不足の実態と指導者の指導力について説明した。「体験活動は、豊かな人間性や自ら学び考える力、生きる力の基盤を育

てる」「子どもの頃の体験活動は豊かな人生の基盤になる」「指導者によって体験活動そのものが大きく変わる」等、国立青少年教育振興機構が行った体験活動等の調査結果を提示することで受講者は体験活動の具体的効果や意義について確認することができた。

講義後は、会場をホールに移し、企画指導専門職によるグループワークゲームを実施した。単なる楽しいレクリエーションの時間とならないよう、「体験したことによる気づきを学びにつなげていく」という体験学習の循環過程について学んでから、グループワークゲームを実際に体験した。少しずつ身体接触や人数を増やし、お互いの協力や信頼関係を築くゲームを組み込むことで、徐々に緊張もほぐれ笑顔が増えていった。

終盤には、課題を解決する過程での気づきを一般化・概念化し、次の活動につなげるゲームを取り入れ、適宜、指導や言葉掛けのポイントを説明しながら「ふりかえり」を入れることで、その重要性を認識することができた。スタンドアップでうまく立ち上がれたときや、フープ知恵の輪が成功したときやインパルスで目標タイムを切ったときには歓声があがり、仲間と喜びを共感でき、大きな達成感も味わうことができた。

＜ 実践例＞　拍手ゲーム、ジッピーが言いました、７－１１、相性チェック　スタンドアップ、仲間集まり、トラストウォーク、キャッチ、ヘリウムフラフープ、魔法の鏡、インパルス等

＜8月２７日（水）＞

【実習】河原で観察

講師　愛媛大学教育学部教授　高橋　治郎　氏
　　愛媛大学教育学部教授　佐野　　栄　氏
　　愛媛大学教育学部准教授　向　　平和　氏
　　愛媛大学教育学部講師　中村　依子　氏

免許状更新講習２日目は、肱川の中流域にあたる大洲大橋下の河原で２班に分かれて水生生物と岩石の採取や地形の観察を行った。環境影響評価の一般的な生物指標である水生生物の採取法の実習では、生物の採取方法や生態についての説明があった。受講者は安全に気をつけて川の中にある石を裏返したり、目の細かい採取ネットを使ったりして、いろいろな種類の水生生物を採取し観察することができた。

岩石の採取では、肱川の河原にある石の中から様々な岩石を採取した。特に、見つけた石灰石に塩酸をかけ、二酸化炭素の発生を確認した。「２億年前に取り込まれた二酸化炭素が発生している」との解説に、受講者は目を輝かせながら実験を行った。

パックテストによる水質検査では、川の水の他、生活排水に含まれる米のとぎ汁や牛乳、日本や外国のミネラルウォーターを使ってｐＨ、ＣＯＤ、ＰＯ４、全硬度の４項目の検査を行った。各班に分かれたあと、標準色と照らし合わせながら、協力して検査した。特に、川のよごれの指標について理解できたり、身近にあるミネラルウォーターにも硬度の違いがあることが理解できていた。

【講義】地学分野

講師　愛媛大学教育学部教授　高橋　治郎　氏

愛媛大学教育学部教授　佐野　　栄　氏

午後からは実習のまとめを行った。地学分野のまとめでは、「河原の石から大地のつくりを探る」と題して、肱川の特性や河原の石の特徴、四国の地質分布などの解説があった。４つのプレートがぶつかり合う中で、海洋プレートのもぐり込みによる海溝堆積物や海山の負荷によって、まったく違う場所に堆積してできた岩石が同じ肱川の河原で見つかることがわかり、大陸の動きや肱川の流域面積の広さを実感することができた。また、水質調査のまとめでは、標準値を提示し各班の検査結果と照らし合わせながら考察した。改めて、家庭排水が河川の水質に大きな影響を与えていることが実感できた。

【実習・講義】生物分野

講師　愛媛大学教育学部准教授　向　　平和　氏

愛媛大学教育学部講師　　中村　依子　氏

自然環境館１階エコスタディールームでは、水生生物を指標にした環境影響評価の利点や欠点についての講義の後、午前中に採取してきた水生生物の同定作業を行った。実体顕微鏡を順番にのぞき、資料に示された生物の特徴と見比べながら名前を調べていった。微妙に違う触角の数や尾の形など、よく似た水生生物の姿に、苦労しながらも楽しみながら協力して同定作業を行うことができた。

10　参加者の声

参加者の事後アンケート結果を以下に示す。

＊満足：97.9％　　＊やや満足：2.1％　　＊やや不満：0.0％　　＊不満：0.0％

○　体験から学ぶことができるようになっており、子どもになった気分で活動ができ、教師、子どもの両方の立場で考えることができた。

○　活動中や前後にそれぞれの活動のめあてや大切なポイントを教えていただいたので、目的をもって取り組むことができた。

○　ポリ袋炊飯や昔の火起こし器、メタルマッチなど新たな情報を知ることができ、勉強になった。

○　体験活動を通して、参加した先生方と自然に交流ができ、楽しく研修することができた。他の会場と比較して、とても参加しやすい雰囲気でよかった。

○　子どもたちに知識の伝授だけではなく、体験を通して自ら学ぶ活動に意義があることを、身をもって体験することができた。

11　成果と課題

５回目の実施となった今年度は会場の変更を行い、昨年よりも８名定員を増やした。今回も、メールでの応募を先着順に行ったが、昨年同様、短時間で定員に達した。このことから国立大洲青少年交流の家での免許状更新講習は認知度が高まっており、さらには人気の高い事業となっていることが分かる。アンケート結果において、体験活動を中心とした講義・演習をとおして、子どもたちにも体験活動が重要であると感じられた参加者が多かった。これらのことから、参加体験型の講習で、参加者自身が体験活動の有効性を感じることのできる、本事業のスタイルは継続していくべきだと考える。

課題としては、先生方に当所のことをより理解していただき、学校の集団宿泊研修や行事等でより教育効果を高めた活用につなげるために、当所の中心プログラムであるカヌーやクライミングを取り入れた体験学習の指導法を組み込めるよう時間数や日数、講義内容等を考えていきたい。また、多くのニーズがあることからも、複数開催ができないか、大学と協議していきたい。